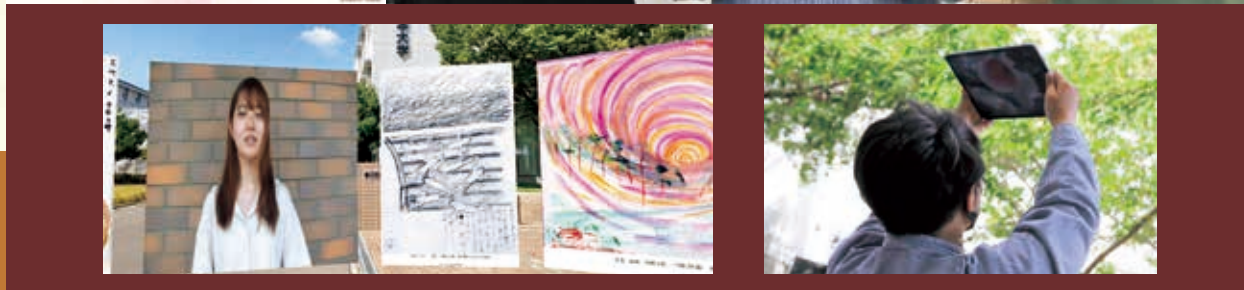


地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2021.9 Vol.144



ARによる平和アートイベントアプリを開発 (詳しくはP.07をご覧ください)

特集

多様に展開される 教員の研究テーマ【第2弾】

- P.02
- 2022年4月 大学院に新たな研究科を設置
総合経営研究科修士課程 P.06
- 安曇野市との包括連携協定締結
多様化する地域課題の解決に向けて P.08
- 今年で3年目を迎える教育学部教育実習 P.12
- 松商学園総合グラウンドの人工芝を全面張替え P.14 ほか

多様に展開される教員の研究テーマ【第2弾】

大学教員が各々の専門分野の研究を行うことは、研究により得られた最新の知識や情報を授業に還元すると同時に、広く社会に普及・発信し、我が国の学術・教育・文化の振興や発展に寄与するという重要な使命があります。本特集では、蒼穹第136号の特集の第2弾として各学科の研究をご紹介します。



年に一度実施される教員研究成果発表会では毎年活発な議論を展開

経済の構造のより深い理解を目指して

総合経営学部 総合経営学科 専任講師 佐藤 嘉晃

当研究室では、経済における貨幣や金融仲介の機能を明らかにする分野の研究を行っています。わたしたち人間が形成している経済は多角的に分析することができ、経済行為を行う個々の主体から一国規模のマク

ロの構造に至るまで、複雑に構成された社会となっています。経済には金融システムと呼ばれる資金の受け払いや貸し借りをを行う仕組みが内在しており、この金融システムは生産・消費といった経済活動の実体面と深い

関連があることが経済学によって明らかになっています。また、中央銀行や金融監督当局は日々さまざまな政策を駆使して金融システムを管理・調整しており、その影響は実体経済にも波及していると考えられています。当研究室では、人々の経済的厚生観点から、中央銀行や金融監督当局がどのような政策手段を実施すべきなのかを理論的に明らかにする研究を行っています。

マクロ・プルーデンス政策

中央銀行や金融監督当局はさまざまな政策を駆使して、金融システムの安定を図っていますが、2000年代の世界金融危機の発生により、個々の金融機関の健全性を確保するだけでは金融システムの安定を実現できないことが明らかになりました。そして近年、マクロ・プルーデンス政策と呼ばれる、金融システム全体の安定性を確保するための新たな政策の立案やその有効性に注目が集まっています。当研究室では、金融危機のメカニズムを説明できる数理モデルを用いたアプローチにより、望ましいマクロ・プルーデンス政策に対する知見を得ることを目指しています。

数値シミュレーション

経済学では、数値シミュレーションは現実の複雑な経済現象を説明する経済モデルの発展のため、また反実仮想的な数値実験として重要な役割を担っています。当研究室では、計算機を用いた経済の数値シミュレーションを行っています。解析的な取り扱いが難しい経済モデルから生成される金融危機・景気循環のメカニズムを数値シミュレーションによって解明することにより、経済の構造のより深い理解を目指しています。

フィールドから紡ぐ「観光地域論」

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 専任講師 丸山 宗志

私の専門は「観光学」、そのなかでも観光現象の空間的側面を明らかにしようとする「観光地理学」の分野です。昨年来のコロナ禍によって世界中の観光活動は一時停止を余儀なくされていますが、それでも21世紀最大の成長産業と呼ばれる「観光」は、その急速な進展の過程で、世界のそして全国の各地にありとあらゆる変化をもたらしてきました。こうしたなか、それぞれの地域はそもそも「なぜ」観光に取り組む必要があり、観光によって「どのように」その姿を変えていくのか。それらを空間的な視点によって読み解いていくのが私の研究課題です。

これまでは、「門司港レトロ」で知られる北九州市の門司港を対象に、歴史的港湾の観光地化が商店街や旧市街を含めた港町全体にもたらした地域変化について研究してきました。

ここでは地域変化を読み解く指標として商業店舗の存在に着目し、観光開発事業が実施された前後にみられる商店街の業種構成の変遷や、観光地化の過程で新たに開業した観光客向け店舗の立地・移転パターンなどを分析しました。このような一つ一つの地域変化を時系列的にモデル化することによって、港町が観光地化をとおしてどのようにして再編されたのかを可視化するとともに、観光が地域に浸透・波及していく様子を捉えてきました。このほか海外の研究では、飛躍的な経済成長を遂げているベトナム・ホーチミン市をフィールドに、現地の都市観光を華やかに彩る歴史景観や外国人観光客でにぎわうバックパッカー街の形成に関する調査を続けてきました。

国内外いずれの研究でも、分析資料の要は自らの足で稼いだオリジナルデータです。



関門海峡と門司港市街地

データ収集のためには1カ月単位の滞在をとものうこともしばしばで、滞在中は現場にいるからこそ読み取れる地域的特色に理解を深めながら、押し寄せる観光の波を観測しようと思ってきました。

近年では「着地型観光」や「観光まちづくり」など、それぞれの地域が本当の意味で自らの個性を発揮できるような観光のかたちが求められています。新たな時代における地域と観光との「あり方」を考えるためにも、今後は観光都市・松本の市街地や信州の各地をフィールドに加えて、地域的特色を重視した「観光地域論」を展開していけたらと思っています。

食習慣を見つめ直して乳がん発症予防

大学院健康科学研究科・人間健康学部 健康栄養学科 教授 青木 雄次

これまで、代謝内分泌学の臨床、がんや老化の基礎的研究を行っていました。健康栄養学科のゼミ学生の研究テーマを模索する中で、最近の乳がん発症率が閉経前後にピークを有する二峰性のパターンで増加し続けていることに気がきました。2005年以降のとくに若い女性の乳がん発症率が、欧米の発症率を凌ぐまでに増加しており、このことは乳がん発症の要因に環境因子が大きく影響していることを示唆しています。乳がん発症と調整可能な環境因子としての食事との関連を文献的に調べ、この問題の当事者ともいえるゼミ学生と国際誌に発表しました。これをもとに、乳がん発症予防の啓発ポスターを作成し、また女子大学生の食習慣に関するアンケート調査を実施するなどゼミ活動を進めてきました。アンケート結果には、乳がん発症予防にもつながる健康的な食事に対する意識が、栄養を専門とする学生においてさえ不十分であることが示されていました。卒業後の食習慣にも影響

する大学生の食事の問題についてはよく知られており、それまでの家庭での食育や生活が自立していくことなどが関係すると推定されています。これらのゼミ活動については、松本大学ホームページの私の関連ニュース欄 (<https://www.matsumoto-u.ac.jp/professors/pid23357.php>)に、「食習慣を見つめ直して乳がん発症予防」活動報告1~4として掲載されています。この中で、2020年11月に作成した啓発パンフレットの片面をここに示します。

ピンクリボン運動にみられるように、日本では乳がんに関する啓発活動として、早期発見のためのマンモグラフィ検査の普及が活動の中心となっています。ここ数十年における乳がんとくに若い女性の乳がん発症率の急増は、調整可能な生活習慣がその発症に関与していることを推測させます。乳がんはホルモン依存性のがんの代表であり、女性ホルモン分泌への食習慣

がんになりやすい食事とは？

- ・食塩・高塩分食品の多量摂取は胃がんのリスク
- ・アルコールの多量摂取は大腸がんのリスク
- ・野菜の摂取不足は食道がんのリスク
- ・熱い飲食物は食道がんのリスク

がん予防の可能性がある食品
緑茶・魚・コーヒー・カルシウム

※食事はバランスよく食べましょう！

乳がんはエストロゲンとの関係が強いのですが、

乳がんと食事の関係について

国	閉経前	閉経後	食習慣
イラン	リスク有	検出なし	ソフトドリンク・ジュース、甘いお菓子、揚げ物の摂取、野菜の摂取不足
韓国	リスク有	リスク有	焼き肉の頻度が多い
日本	リスク有	リスク有	不規則な食生活 (1日1食以下) 食の西洋化 (肉・加工肉・パン・乳製品・コーヒー・ソフトドリンク・紅茶・ソース・アルコールの摂取が多い)
アジア	リスクが減少	リスクが減少	大豆製品がイソフラボンの摂取をする

注：乳がんは、西洋人に多く日本人には少ないが、最近若い女性の乳がんが増え、西洋人と同じくらいになってきています。
●日本の報告では、若い人の乳がんとの関係が明らかになっていませんが、イランや韓国の報告を見るとやはり健康的な食事は大切だと考えます。みなさん、日々の食生活を意識していきましょう。

松本大学健康科学研究科 青木 雄次 2020年11月8日

の影響も含めて、「食習慣を見つめ直して乳がん発症予防」という研究活動は、やや挑戦的で新たな研究活動であると思います。がんと食事との関係は、人々にとってとても関心の高いテーマであり、この分野でさらに研究活動を発展させていきたいと考えています。

血管と呼吸(筋)の健康に役立つトレーニング方法の開発

人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授 山本 薫

高校生の私は、甲子園を目指して白球を追いかける野球少年でした。運動は身体を鍛えて試合に勝つための手段でしかありませんでした。大学に入学してなんとなく入ったゼミでトレーニングが身体に様々な変化をもたらすことを学び、修了と同時にその仕組みを健康づくりに生かす仕事に就いたことが今の原点となり、紆余曲折を経て、動脈硬化予防となる血管の柔軟性維持や呼吸(筋)の機能維持に効果的なトレーニング方法について研究を行っています。

ウォーキングやジョギングといった、余裕を持って呼吸できる強さの運動を行うと酸素を運ぶ体内の血液の量が増えて、血管は自ら広がることで多量の血液を流そうとしま

す。それでも血液の勢いは強く、血管の内側の壁に圧力がかかります。この圧力が刺激となってNO(一酸化窒素)が発生し、これが血管をしなやかに保ってくれます。

運動なら何でもよいかというと、筋トレのような息んで血圧が上がるような運動は、かえって血管を収縮させて硬くしてしまうと考えられています。

しかし、私は、筋トレが筋力維持に欠かせない重要な運動でもあることから、何とかして筋トレをしながらも血管をしなやかに保つ方法を見いだせないか、健康が気になる世代の方々には2ヶ月程協力を得て、実際に筋トレを実施したあとの血管の柔軟性を何度か調べました。若い人の血管は元々柔らかく、大きな変化はありませんが、中高年者は、強度の筋トレを行うと血管が一時的に柔軟性を失ってしまいます。そこで、トレーニングマシンを用いて、筋力向上効果も望める15回程度繰り返せる重さを目標に繰り返していけば柔軟性を失うことはないというデータが得られています。



もう一つ、呼吸についてです。人間は加齢とともに気道が細く硬くなったり、脚力や腕力と同様、呼吸に関わる筋力も低下し、呼吸しづらくなります。そのため、運動すると息苦しくなってすぐにやめてしまう方も多いです。呼吸に直接関わる筋肉達をまとめて呼吸筋と呼び、横隔膜や腹筋など11程の筋肉が含まれますが、呼吸時に直接抵抗を与えて呼吸筋トレーニングを行うことで呼吸困難感が低減し、運動がしやすくなります。また、筋トレを行う際に血圧上昇を避けるための強い呼気と吸気を繰り返し行うことで呼吸筋へのよい刺激になり得ないか、などを考えてトレーニングと呼吸筋力発達の関係を調べています。呼吸筋に対する筋トレのデータは、コロナ禍もあり手元にまだ少ないためこれからの結果待ちですが、何とかよい方法が見つかるよう再開後、継続していきたいと考えています。興味のある方、ぜひ、ご参加をお待ちしております。



動機づけと学校適応に関する研究

教育学部 学校教育学科 専任講師 海沼 亮

私の専門分野は、発達心理学および教育心理学です。その中でも「動機づけ」や「学校適応」について研究しています。

「やる気」や「モチベーション」とも称される「動機づけ」は、勉強やスポーツなど、日常生活と密接に関係しています。例えば、「勉強する理由」を考えてみても「勉強が楽しいから」、「まわりから勉強するように言われるから」等、人それぞれの理由があると思います。このような理由の違いは、まさに、動機づけの違いに相当すると考えられています。私は、動機づけが友だちや学校の先生などの他者との関係によってどのように左右されるのかを中心に研究しています。

学校適応に関しては、具体的な研究例を

1つご紹介します。学校生活の楽しさは、授業や部活動への取り組み、友だちや先輩・後輩との関係など様々な要因によって変わることが想定されますが、この研究では、「性格への固定的な考え方」に注目しました。「性格への固定的な考え方」とは、「性格は変わらないだろう」のように、性格を固定的な性質だと捉える考え方を表します。これまで、固定的な考え方を持っていると、ストレスが高まったり学業成績が低下したりすることがわかっていました。また、介入することで、固定的な考え方を変えることができることも海外では、報告されていました。しかしながら、日本の高校生を対象に、性格への固定的な考え方を変えようとした研究は

ありませんでした。

そこで、単位制高校の生徒を対象に、性格への固定的な考え方を低めることを目的とした授業を行い、学校生活にどのような影響があるのかを調べました。授業では、性格が実際に変わり得ることを示した研究を紹介したり、学んだことを自分の言葉でまとめてみたりする活動を行いました。その結果、授業によって性格への固定的な考え方が低下する傾向が確認されました。さらに、授業から2週間後に、アンケートを行った結果、学校生活へのポジティブな感情が高まる傾向も確認されました。こうした結果から、性格に対する考え方への介入が学校生活を支えたり、学業パフォーマンスを向上させたりする一助となる可能性が示されたものと考えています。

銀行の破綻処理法制の考察 米国・欧州との法制比較

松商短期大学部 経営情報学科 教授 飯塚 徹

銀行が破綻した場合、一般の事業者とは違う特別の破綻処理手法で手続が進められます。一般の事業者が経営破綻した場合、公的資金(税金)による救済は行われませんが、銀行には、これまでに10兆円以上の公的資金が投入されてきました。金融機関のなかでも、証券会社や保険会社が経営破綻した場合には公的資金は投入されません。銀行のみ公的資金により救済されてきました。銀行は経済の根幹となる決済システムを担い、国民生活と密接に結びついており、破綻はシステムリスク(連鎖的な悪影響)を引き起こすためとされています。

こうした、銀行の破綻処理の進め方について、日本のこれまでの破綻処理事例を踏まえ、先進的な米国の事例、欧州の事例を参考にして、預金保険制度も含めて一体的に法的観点から調査・研究しています。

米国のリーマンブラザーズの破綻(2007)を発端とした世界金融危機(2007-2010年)により、世界の銀行の破綻処理法制は、市場型システムリスクに備える態勢となりました。震源地となった米国では、ドッド=フランク法を施行し、Too big to fail(TBTF)政策を終了させ、今後、金融機関等に公的資金を投入しないことを規定しました。金融危機の

大きな影響を受けた欧州では、域内のルール(再建・破綻処理指令(BRRD))を策定し、統一的にバイルイン(金融機関の株主・債権者等が損失を負担)をすることを原則としました。欧州では、実際に近年、銀行の破綻処理にバイルインが適用されています。

日本においても、市場型システムリスクに備えるため、2014年に預金保険法が改正され、「秩序ある処理」スキームが導入されました(図)。しかし、既存の破綻処理法制については大きな改正はありませんでした。私は、ここを注視し、20年以上変わっていない破綻処理法制を、米国・欧州の法制・議論などを参考に、見直すべきと考えています。なお、銀行への公的資金の投入について、日本は、米国・欧州に比べ寛容な制度となっています。預金保険法は、バイルアウト(公的支援)を規定し、認めています。

破綻処理法制は、適時・適切な見直しを短いサイクルで行うべきです。また、破綻処理法制と預金保険制度は車の両輪であり、実効性の観点から一体的に考察する必要があります。そして、国際的なハーモナイゼーションの観点から踏まえ、米国・欧州の制度を参考に導入すべき法制、一方、日本の状況・環境を踏まえ日本独自の制度を維持・構築すべき法制に峻別したうえで、その内容を考察することが重要となります。

地域銀行は厳しい状況下であり淘汰が進み、経営破綻する先も予測されることから、破綻処理法制について見直し・研究することは、法的インフラ整備として意義があると考えます。

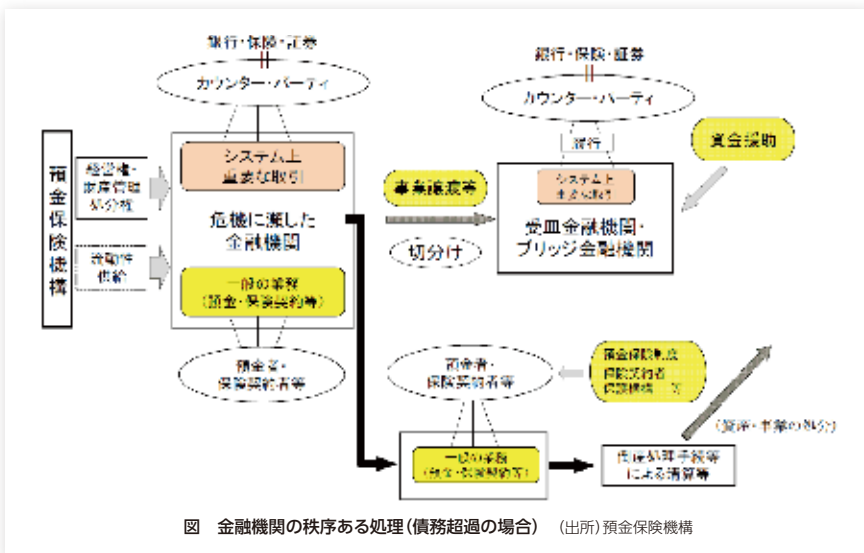


図 金融機関の秩序ある処理(債務超過の場合) (出所) 預金保険機構

栄養素やホルモンによる体内時計遺伝子の発現調節

大学院健康科学研究科長・人間健康学部 健康栄養学科 教授 山田 一哉

私たち地球上の生物には、24時間を刻む体内時計が備わっています。ヒトでは脳内の視交叉上核に主時計が、その他の組織には末梢時計が存在しています。主時計は光により、末梢時計はホルモン等により発現が制御されています。現在では、朝起きて（運動）、朝日を浴びて（光）、朝食（食事）をとることで、主時計と末梢時計がリセットされシンクロすることで、24時間の概日リズムが整い、健康の維持・増進につながるといわれています。

炭水化物を摂食した後、生体は一時的に高血糖状態になりますが、膵臓からインスリンというホルモンが分泌されて血糖値は低下します。インスリンが分泌されない場合は、高血糖状態が続き糖尿病が発症します。私どもの研究室では、世界で初めてインスリンによって発現が誘導される体内時計遺伝子としてSHARP-2遺伝子を同定しました。その後の研究から、SHARP-2遺伝子がインスリンによる血糖値の低下に関係している

ことを明らかにしました。このことから、糖尿病であっても、何らかの方法でSHARP-2遺伝子の発現を誘導できれば、血糖値を低下させることができ、ひいては治療につながるのではないかと仮説のもと研究を進めてきました。その中で、緑茶に含まれるカテキン類や大豆に含まれるイソフラボンなどの食品成分や大豆イソフラボンの腸内細菌による代謝産物、および栄養素であるビタミンAが肝臓でSHARP-2遺伝子の発現を誘導できることを明らかにしました。最近では、骨格筋細胞や脂肪細胞では、cAMPというホルモン作用を発揮する物質でもSHARP-2遺伝子の発現が誘導されることを見出しています。一方、他のグループからは、視交叉上核では光によりSHARP-2遺伝子の発現が誘導されることが報告されました。したがって、まさに、朝起きて、朝日を浴びて、朝食をとることで、主時計と末梢時計でSHARP-2遺伝子の発現がリセットされシンクロすることから、SHARP-2遺伝子が健康



の維持・増進に密接にかかわる体内時計遺伝子であると考えています。近年、体内時計の調整が乱れることで多くの疾病やがんになることがあるといわれています。私どもは、TGF-βというがん細胞の増殖を抑える因子がSHARP-2遺伝子の発現を誘導することも見出し、今後は発がんと体内時計遺伝子との関連についても研究していくことにしています。

教育研究の知見を地域に還元

各種講演会やセミナーへの講師派遣を承ります

本学では、研究の成果を地域に還元し、社会に貢献することを目的に、地域で実施される各種講演会やセミナーなどに、講師・パネラーとして本学の教員を派遣しております。また、高校生や中学生には、学問に対しての興味や関心を持ち進路選択の際の参考としていただけるよ

う出前講座を実施しています。

難しい内容ではないだろうか…と思われることもありますが、依頼されたテーマや内容にあわせて提供しており、毎年多くのご要望をいただいています。これまで実施した講演内容の一部をご紹介します。

『衰えない筋肉をつくる』基礎研究者と宇宙のつながり 大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 教授 河野 史倫
健康寿命を延ばす運動のコツ! 大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 教授 根本 賢一
健康長寿について考える ―長寿村の食事から― 大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 廣田 直子
日常生活で曝露されるアレルギー憎悪物質 大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 弘田 量二
美味しい給食提供のために ～下ごしらえの役割と薄味でも美味しく食事を楽しむポイント～ 大学院健康科学研究科・健康栄養学科 准教授 石原 三妃
少しでも役立つ(かも知れない)対人業務に伴うストレスへの対処法 大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 准教授 齊藤 茂
地方中小企業における人材の定着・育成に向けた取り組み 総合経営学科 教授 兼村 智也
精神障害および人格障害のある人への接し方について 総合経営学科 准教授 矢崎 久
自助と共助による地域防災 観光ホスピタリティ学科(地域防災科学研究所長) 教授 木村 晴壽
地域の中で高齢者を支えるために 観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸
幸福度の高い国・地域から学ぶ『質素で魅力ある暮らし方』 観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文
公民館の歴史をたどり、これからの可能性を考える 観光ホスピタリティ学科 准教授 向井 健
病態別栄養管理 健康栄養学科 准教授 藤岡 由美子
成長期アスリートのためのスポーツ栄養学 健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之

部活をがんばる高校生のスポーツ栄養学 ～体づくりに奇跡はない～ 健康栄養学科 助手 石澤 美代子
それでも君はタバコを吸いますか? スポーツ健康学科 教授 岩岡 英明
いきいきと生活するために楽しい運動実践法 スポーツ健康学科 准教授 田邊 愛子
カリキュラム・マネジメントの理論と方法 ―「新学習指導要領」を踏まえた学校経営的観点から― スポーツ健康学科(教職センター長) 教授 山崎 保寿
教育相談の基本姿勢～集団に向き合うこと～ 学校教育学科 教授 岸田 幸弘
肢体不自由障がいを持つ子どもたちへのプール指導 一水の中でもっと自由に・もっと楽しく～ 学校教育学科 教授 小林 敏枝
中学校・高校英語応用 ～自己表現力を高めるための工夫～ 学校教育学科 教授 和田 順一
グローバル化と社会の変容 ―日本社会を中心に― 松商短期大学部 商学科 教授 糸井 重夫
中心市街地活性化と新しいまちづくりにおける図書館の役割と期待 松商短期大学部 商学科(松本大学図書館長) 教授 伊東 直登
「使える」マーケティング実践講座 松商短期大学部 商学科 教授 金子 能呼
杖のユニバーサルデザイン 松商短期大学部 経営情報学科 准教授 廣瀬 豊

お問合せ・お申込みは詳しくは、こちらをご覧ください。
※新型コロナウイルス感染拡大の状況により実施方法をご相談させていただく場合がございます。



高度な経営知識と最新の課題に対応できる 人材の養成をめざして

副学長・総合経営学部長 教授 増尾 均

総合経営研究科設置という 新たな一歩

総合経営学部は、2002(平成14)年に松本大学の開学と同時に設置され、20年にわたり地域社会を担う人材を養成する学部として大きな役割を果たし、また社会からも高い評価を得てまいりました。そして設置から21年目となる2022(令和4)年4月、総合経営研究科を設置するという新たな一歩を踏み出すこととなりました。これにより本学部の教育研究分野活動は、さらに高度で充実したものとなります。

以前から近隣自治体ならびに経済界からは、専門的・実践的研究を積み、地域社会の知的基盤を支える人材育成に関して強い関心と要請がありました。また、県内における経営系大学院は少なく、学生からは高度な専門教育研究の場に対するニーズが高く、その確保は急務であり、これらの問題を解決するためにも、本研究科の設置は喫緊の課題となっていました。

本研究科が養成する人物像

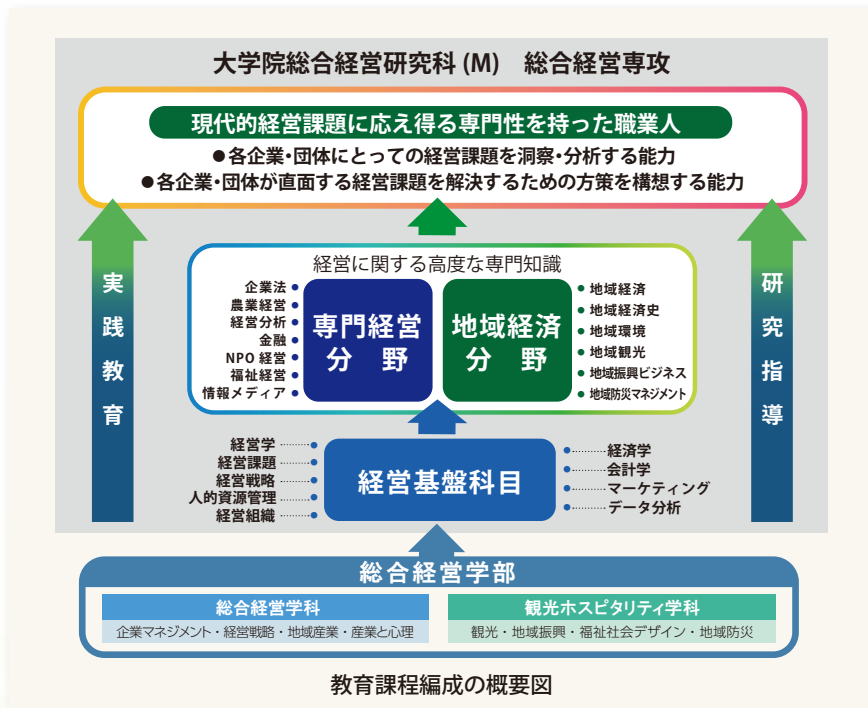
激しく変わりゆく社会の中、極めて困難で多岐にわたる現代の経営課題に対応するには組織全体のあり方を見通す眼は言うまでもなく、一定のまとまりを持つ地域経済全体を俯瞰する眼を持つことも求められています。現代における個々の経営課題は相互に関連する場合が多く、それらの諸課題をトータルに捉えるだけでなく、他分野の経営動向をも含めて目配りをする能力があってはじめてそれぞれの経営課題への対応を構想することができます。しかも、学界や行政組織だけでなく組織経営の現場でこそ、そのような能力は活かされるべきであり、そのような素養を備えた職業人が今や求められています。これらの考え方に立ち本研究科は、企業・団体を的確かつ効率的に経営するための専門知識と技能を身につけ、地域社会の発展方

向を踏まえて一般企業をはじめ各種団体が抱える経営課題の解決に寄与し得る職業人を養成し、社会に貢献することを目的としています。したがって、平成17年中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」に明示された「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」機能を果たすことを目指しており、そこで指摘されている「学問と実践を組み合わせた教育」を念頭に置いた教育課程の編成を心がけています。さらに、これらの関連科目も配置しており、この教育課程が関連分野の基礎的素養をも養成し、地域の経済社会を支えるに相応しい知的素養の涵養にも資するものとなるように配慮しています。

幅広い教育研究ができるような 特徴ある教育課程編成

本研究科の授業科目は4つのカテゴリーに分けて図のように組み合わせて編成してあります。組織を運営・経営するために必要となる経営学の基盤を固めるための「経営基盤科目」をベースとし、その上に経営組織に関する

専門知識を発展させて学ぶ「専門経営分野科目」と、特定分野の企業・団体の経営のあり方を学べる「地域経済分野科目」を配置し、最後に修士論文の作成に関わる研究指導を担う「研究指導科目」を配置しています。したがって、一般企業の経営のみならず、農業分野・観光分野・福祉分野・地域経済分野等、各分野の経営課題について、総合経営研究科の名に相応しく幅広い教育研究ができるようになっていきます。本研究科には様々な特徴があるものの、主だった特徴としては、①座学の他に地域の現場での実地体験・実地調査等を取り入れたアウトキャンパス・スタディ、②履修モデルを学生に提示して学習課題を絞ったコースワーク、③社会人の方たちの受け入れを考慮した柔軟な修業年限と開講時間等があります。今後、本研究科は、多くの向学意欲のある人々を引きつけ、高度な経営知識に加えて最新の課題にも対応できる専門職としての実践力を備えた人材を養成する場としていきたいと考えています。



【2022年度 入試日程】 ■松本大学大学院／総合経営研究科

選抜区分	募集人数	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
総合経営研究科 修士課程 選抜Ⅰ期(一般学生・学内推薦学生・社会人)	3	11/29(月)~12/7(火)	12/11(土)	12/20(月)	1/7(金)
総合経営研究科 修士課程 選抜Ⅱ期(一般学生・学内推薦学生・社会人)	2	1/3(月)~1/28(金)	2/6(日)	2/16(水)	2/24(木)

詳しくは、WEBの学生募集要項を必ずご確認ください。



平和で豊かな社会の創造に向けて「平和に関する勉強会」

ARによる 平和アートイベントアプリが完成

観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸

鹿児島知覧訪問に向けての学修

“平和で豊かな社会の創造に貢献する”と松本大学学則に謳われていることを皆さんご存知でしょうか。私は認識できていませんでした(お恥ずかしい話です)。前号(143号)掲載の第二次中期計画でも謳われているように、平和教育推進の取り組みとして今年度より「平和に関する勉強会」が本格的に

スタートしました。現在のところ、参加学生はおよそ10名で、菅谷昭学長の講義を聞いて関心を持った学生や、友人や教員から誘われて参加した学生など様々です。5月11日にスタートし、これまで次の二つに取り組んできました。一つは、特攻隊の基地であった鹿児島県知覧を訪問することです。知覧訪問の意味は、特攻平和会館にある学生と同年代の特攻隊の資料に直接触れ、何かを

感じてほしいという願いからです。訪問のために、松本コース平和ネットワークで作成した冊子『平輪～ここがスタートライン～』を活用して意見交換をおこなったり、また『特攻第四十三振旅隊「永遠の又之叔父」』という遺稿集を発刊された従兄関係者に、直接お話を聞く機会を設けました。また向井健准教授の解説で、当時の時代背景についても学びました。コロナ禍のため再三訪問が延期されていますが、触れる機会は必ず作っていきたいと思っています。

原爆の悲惨さをアプリで体感



広島原爆生存者の絵や被爆者のコメント、 学生メッセージが世界中どこからでも

開発したアプリを起動するとスマートフォンやタブレットをかざした目の前の風景を背景に、広島原爆生存者の絵10枚などが浮かび上がり、タップするとそれぞれが展開します。スマホを空に向けてと原爆破裂の瞬間の空をシミュレートした塚田守氏の作品が出現します。

それぞれの絵をタップすると、本学学生のナレーションによる、原爆犠牲の惨事を描写する被爆者コメントを聞くことができます。



学生有志が戦争の歴史や勉強会を踏まえ、未来を見据えた学生5名のメッセージビデオが流れます。また、平和に関連する書籍の朗読も。背景には、学生と教員の合唱による「イマジン(曲/ジョン・レノン)」も流れます。



このアプリは10月末まで利用できるため、QRコードを参考に是非アクセスして体験してみてください。
※アプリが見れない学生は尻無浜までご連絡ください。

アプリダウンロード用QRコード



iOS版



Android版

※Android版はAR対応の機種でない場合インストールできません。

新しいツールを用いた 平和へのアプローチ

もう一つは、AR(拡張現実コンピュータープログラム)を使った平和アートイベントの取り組みです。勉強会に集まった学生が中心となり、塚田守氏(上田市出身のアーティスト)らの指導を受けて実現したものです。開発した新しいツールであるスマートフォンのアプリを活用し、原爆の悲惨さを体感できます。このほど完成し、8月30日には発表記者会見を行いました。作り上げていく過程でアカペラ部や放送部で活躍する学生が個人で参画してくれたり、また教育学部の学生が平和に関連する書籍を紹介し、学生メッセージとして映像の中に記録することができました。

毎年8月の広島・長崎の原爆の日や終戦記念日には平和について思い考える機会が多くありますが、それが過ぎると忘れてしまいがちになります。そこで、こうした新しいツールを用いた身近に感じる平和へのアプローチは今後必要になってくるのではないかと発表会の席上で菅谷学長は指摘しています。一連の取り組みを通じて感じたことは、勉強会への参加のきっかけは必要で、松本大学に集う教職員、学生が自然に平和を考えることにつながっていくことが大切ではないかということです。また、しっかりどこかで「立ち止まって」見て考えることは必要であり、平和は立ち止まって考える一つの起点になるのではないかと思います。

安曇野市との包括的連携協定締結 多様化する地域課題の解決に向けて

安曇野市と松本大学・松本大学松商短期大学部は8月26日に包括連携協定を締結しました。主たる目的は、地域活性化や人材育成などの包括的な活動ですが、特に文化・観光振興、健康づくり、地域づくり等の地域課題の解決に向けて協力していきます。

本学ではこれまで安曇野市に於いて自転車活用による健康づくりの実証実験、一般介護予防教室、6次産業化の促進事業、ご当地B級グルメ開発等々、本学の研究特性を生かした事業など様々な活動を通じて連携し、地域社会の発展に貢献してきました。今回、安曇野市との連携を図ることにより、更なる取り組みの充実と地域課題の解決に向けて教育的な効果も期待されます。これまでの活動を中心に、安曇野市と連携・協力した取り組みについてご紹介します。



自治基本条例策定、まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議に関わり、まちづくりに貢献

観光ホスピタリティ学科 教授
地域防災科学研究所 所長 木村 晴壽

自治基本条例策定のサポート

地方自治に関わる約500の法律を改正する地方分権一括法が2000年に施行されて以降、全国の自治体でいわゆる自治基本条例(実際の条例名は様々)の制定が相次ぐこととなりました。地方自治法にない具体的な規定を、各自治体独自の考え方に沿って条例化しようという動きであり、安曇野市でも自治基本条例の策定に向け、地域づくり課が中心となって2015年から作業が開始されました。当時の私は、本学の「地域づくり考房「ゆめ」」に関わっていたことから2014年の秋口に、この策定に力を貸して欲しいとの依頼をいただき、特定の政治勢力にコントロールされての条例策定でないことが確認できたこともあり、本学の重要な地域貢献活動の一環としてお引き受けしました。

2015年に入ってから半年間、「自治基本条例制定市民会議アドバイザー」として数多くの市民ワークショップに参加しながら条例の趣旨や制定プロセスの重要性などを説明することに費やし、2016年からは「自治基本条例制定市民会議」の委員として条文の制定に携わりました。翌2017年3月市議会での議決を経て4月から施行され、なんとか肩の荷を降ろすことができました。

簡単なことでないことは予想していましたが、住民や市職員への説明会・講演会、あるいは市民集会でのアドバイザー等、ほぼ毎週のように安曇野市に足を運んでいたような気がします。「自治」基本条例なので、あくまでも住民主導の制定が基本でしたが、市長も条例制定に強い意欲をお持ちだったため市議会の賛同も得られ、結果的には2年半という短時日の内に制定に漕ぎ着けることができました。

「まち・ひと・しごと総合戦略事業」有識者会議

近い将来にわが国の半数の自治体が消滅する可能性がある指摘した2014年のいわゆる増田レポートは、センセーションを巻き起こし、これを受けて政府はまっしぐらに地方創生事業に突き進んだのです。簡単に言えば、地域の活性化に資する事業を各自治体が立案し、それを内閣府が補助金交付というカタチで支援する、ということです。

自治基本条例制定に関わった事からか、安曇野市が実施する地方創生事業に関する検討委員会「まち・ひと・しごと総合戦略事業」の会長の依頼をいただきお引き受けしたことで、安曇野市とのご縁は現在でも続いて

います。2015～2020年の第1期5年間、設定された目標数値とその達成度についての検討を年毎に繰り返し、現在は第2期(2021～2025年)に入っています。この地方創生総合戦略事業は、なかなかやっかいな方式を採用しているのです。「KPI」と呼ばれる、数値による達成目標を示したうえで、年度毎にその達成度を検証するというやり方のため、結果がはっきり数字で出てしまいます。となると、目標自体が曖昧になるばかりか、目標とする数値がどうしても低く設定されることとなります。こうした目標設定と、その達成実績に関する数値を検証する会議のため、会議のメンバーは皆さん目が三角になり、この手の会議としてはやや辛口のコメントが続出しています。今後もこうした会議にかかわりながら、安曇野市の地域活性化に寄りたいと考えています。



安曇野市の花「わさび」

自転車を活用した健康づくりへの取り組み

観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子

2019年度から3年間にわたる「自転車での健康づくり実証実験」では、安曇野市からの依託事業で市民に対して自転車指導を含む運動指導や栄養指導を月に1回程度行い、体力測定をして効果を検証してきました。同市ではこれまで学生の社会福祉実習や管理栄養士実習の受け入れにも協力していただきました。加えて、2020年度より市役所でのインターンシップ実習生も受け入れていただくことにより、学生の幅広い見識と

社会への適応性を身につけることにも協力してもらってきた経緯があります。

現在、安曇野市では都市計画マスタープランの都市施設整備の基本方針に基づき、自転車活用推進計画を立案中です。自転車活用に基づいた道路整備計画は、国、県、市が互いに連携し一体となって推進するものでありますが、事業化における安曇野市固有の配慮事項として、自転車通行帯の表示を含む多様な計画道路のネットワークづくりや既存の「あづみ

野やまびこ自転車道」を骨格とした自転車利用環境の整備などを含んでいます。自転車を活用した観光まちづくりにも積極的に取り組んでおり、「安曇野サイクリングオアシス」という名称の休憩スポット導入や、密を避けながら観光施設や飲食店を自転車で巡る「安曇野サイクルロゲイニング」イベントを実施することでシェアサイクルの利用促進を狙っています。



毎年好評の「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」

総合経営学科 教授 室谷 心

安曇野市からの受託事業で、松本大学の学生が子どもたちにプログラミングの楽しさを教えるという「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」のイベントは、今年で4年目を迎えます。内容は、プログラミング教室と



フィジカルコンピューティング体験コーナーの2本立てとなっており、プログラミング教室を総合経営学科で情報の教員を目指す学生たちが担当し、フィジカルコンピューティング体験コーナーを松商短期大学部矢野口ゼミの学生たちがそれぞれ担当しています。

プログラミング教室では、学生たちが工夫して考えたオリジナルのスクラッチ教材を使った授業を行っています。参加した小学生は、慣れないマウス操作に最初は戸惑いながらも、プログラミング独特の考え方に慣れていき、最後にはみんながプログラミングを完成し、自

分が作ったゲームで楽しんでいきます。

フィジカルコンピューティング体験コーナーでは、学生がスクラッチで操るドローンや3Dカメラのkinectを使ったプログラム、micro:bitを使ったラジコンカーや戦車を披露し、体験に訪れた子どもたちに毎年大人気です。

このイベントを通じて小学生に教えるという貴重な機会を学生に提供していただき、学生たちのプログラミングに対する理解は格段に深化しています。この安曇野市受託事業が、子どもたちがプログラミングへの興味を深めるきっかけになることを期待しています。

学生の学びを地域で活かす機会として 安曇野市との地域福祉に関する取り組み

観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸

本学と安曇野市との福祉に関するこれまでの取り組みは、大きく2つ挙げられます。一つは、安曇野市地域福祉計画策定における取り組みです。計画策定に教員を派遣し、また計画内容によっては社会福祉士を目指す学生の意見を反映させました。

もう一つは、安曇野市適応指導教室へのサポートです。不登校児童生徒の学校復帰に向けた事業であり、そこに学生が夏休み期間中の

学習支援に関わってきました。これは、東日本大震災時に被災児童の学習支援をした経験をもつ学生が関与したことからスタートしました。

いずれもここでの活動も学んだことを再び自分の地域で活かすことができる貴重な機会を与えていただいています。今では、卒業生が社会福祉士として安曇野市役所や安曇野市社会福祉協議会、安曇野市内の病院等で活躍しているところに繋がっています。



当時の学生による対応への作戦会議

▶安曇野市と連携・協力して取り組んだその他の事例

会議・委嘱など

- ・総合計画審議会（第二次総合計画前期基本計画の策定）
- ・工業振興連携推進協議会（工業振興ビジョンの効果検証等）
- ・おひさま推進協議会（わさびの新メニュー開発）
- ・教育委員協議会（活力ある学校のあり方を検討）

会議・委嘱など

- ・インターンシップ
- ・社会福祉士実習生、管理栄養士実習生の受入
- ・協働のまちづくりのフォーラム（理解と参画の講演会）
- ・区長会研修会（地域力向上のための講演会）
- ・6次産業化の促進（焙煎そば粉の商品化等）
- ・観光アンケート調査・集計分析
- ・公民館大会（講演会講師）

取り組みの充実と
地域課題の解決に向けて
『包括的連携協定締結』

▶包括連携の分野

- (1) 地域文化の振興に関する事
- (2) 健康づくりに関する事
- (3) 地域産業・観光に関する事
- (4) 教育・人材育成に関する事
- (5) 地域づくり・まちづくりに関する事
- (6) 自然・環境に関する事
- (7) 防災に関する事
- (8) 学術研究に関する事
- (9) その他両機関が必要と認める事項

地域連携活動

地域健康支援ステーション

生活習慣を「栄養面」と「運動面」からサポートする「特定保健指導」の機関に認定登録

8月2日、社会保険診療報酬支払基金長野支部より、本学の地域健康支援ステーションに対して特定保健指導を実施する機関コードが附番され、登録されました。これにより特定保健指導が必要な方に、地域健康支援ステーションに所属する管理栄養士と健康運動指導士などの専門スタッフが生活習慣を「栄養面」と「運動面」からサポートすることができるようになります。

ご存じのように、「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」は自覚症状がほとんどないものの、放っておくと動脈硬化が急速に進行し、心臓病や脳卒中などを引き起こす危険性が高まります。それを未然

に防止するためにも、健康診断でメタボリックシンドロームと指摘された方は、特定保健指導を受け、栄養面の改善や運動に取り組むことを通じて生活習慣を見直し改善していきましょう。

(地域健康支援ステーション所長・スポーツ健康学科長 准教授 中島 節子)



池の平ホテル×松本大学による
【出張型】特定保健指導のデモンストレーションを実施

健康経営に取り組む県内企業へ 体力測定と運動指導を実施

7月7日、8日と長野市にて、高木建設株式会社の体力測定を実施しました。今回の体力測定は、健康診断日に合わせて実施する新たな取り組みでした。当日は、健康診断を終えた方から順番に、体組成計測や脚筋力、持久性体力など計6種目の体力測定を行いました。



初めて行う測定も多かったようで、「きつい」と言いながらも、和気あいあいとした雰囲気を楽しみながら測定を行っていました。

今回依頼をいただいた高木建設株式会社は、健康経営にも力を入れており、健康経営優良法人の認定なども受けています。地域健康支援ステーションでは、こうした健康経営に前向きな企業様にも、有益となるような取り組みのひとつを行っています。この体力測定結果は、一人一人のデータを解析し、個別にフィードバックや運動メニューを作成します。体力測定を受けた方々が、生活習慣を改善できるよう今後もサポートしていきます。(健康運動指導士 近藤 壮太)

フォレストワーカー研修で栄養講話 ～バランスの良い食生活を送っていただくために～

7月7日、林業労働財団様より依頼を受け、フォレストワーカー1年目の研修会にて栄養講話を行いました。42名の参加者は、年齢や経歴も様々。林業を支える、現場活動が多い方々です。バランスの良い食生活を送っていただくために、まず5大栄養素をはじめとした各種栄養素それぞれの働き、食卓にのせたい色、日本型食生活である「主食」「主菜」「副菜」を揃えた一汁三菜、身体の構成について説明を行いました。

講話の後半、食事バランスガイドを用いて普段の食生活について主食・主菜・副菜・果物・牛乳、乳製品の過不足を振り返ると「自分の日々の生活の質の悪さが丸見えになってしまい、まずいと思った」「自分には果物が足りないことや、意外と気を付けていても現実には甘くないと思われた。体を使う仕事なので、このような知識や実践をしていきたいと思う」等、気づきを得ていただくことが出来ました。まとめの最後に栄養クイズも行い、和気あいあいとした講話となりました。(管理栄養士 長沼 穂子)

地域づくり考房「ゆめ」

今年の活動に向けて、サンタ・プロジェクト ～プロジェクトの歩みや活動を深める学びと、サミットに参加～

クリスマスを自宅で過ごすことのできない子どもたちに本のプレゼントをする「サンタ・プロジェクト」という活動があります。地域づくり考



大澤先生からプロジェクトの歩みを説明

房「ゆめ」の学生は、「サンタ・プロジェクト・まつもと」の一員として、社会人メンバーの皆さんと一緒に活動をしています。活動が本格的に始動するのは秋以降ですが、その前に再度サンタ・プロジェクトの歴史を知りたい、という声から寄せられました。そこで、日本でこの活動を広められた大澤秀夫先生を招き、7月に「プロジェクトの歩みや大切にしたいことについて学び会」を実施しました。大澤先生の想いに触れた学生たちからは、「話を聞いて、改めて素敵な活動だと思った」「今まで知らなかったことも知ることができた」などの感想が寄せられました。



サンタサミット集合写真

9月上旬には、各地のサンタ・プロジェクトが年に一度集まって活動報告や交流を行う「サンタサミット」に参加しました。コロナ禍以前は開催地へ足を運んでいましたが、今年はZoomを使用した開催となりました。2年ぶりに各地のメンバーと顔を合わせ、コロナ禍の取り組みで工夫した点や、相談したいことなどを話し合いました。このような厳しい状況だからこそ、この活動を通じて人と人の繋がりが、温かさを感じられるという声が多く挙がっていました。参加した学生も刺激を受けたようで、活き活きとしていました。

学生たちは、勉強会とサミットで感じた想いを乗せて今年の活動を深めていけるように、と再度気持ちが奮い立たされたようです。

(地域づくり考房『ゆめ』 中島 麻衣)

最近の学術的な活動から

伊那食品工業(株)最高顧問による地域公開講座『本当の学びとは』をテーマに講演

去る7月19日、伊那食品工業株式会社・塚越寛最高顧問をお招きし、「地域公開講座」を開催いたしました。承知のように氏は『年輪経営』という



比類なき経営哲学で、一貫して「社員の幸せ」を追求し、大きな成果を収められています。その神髄は「人づくり」にあり、これを次世代を担う地域の若者たちにお伝えいただきたい、こうした思いからお願いし、実現したものです。

お話のなかで「他人のために行動すること」、「幸せ」と「健康」の大切さ、その「幸せ」を実現するためには「夢」をもち、少しずつ広がっていく「末広がりに」することの重要性、また「How to do」(どうすべきか)ではなく、「How to be」(どうあるべきか)を考え、学ぶべき等とのご指導をいただきました。

この講演会は私が担当する地域産業論の履修生(総合経営学科2年生)が主体となり、講演後には多数の学生から質問が寄せられるなど彼らの胸にも響いたのではと考えております。また外部の方々、そしてメディア関係者の方も多数おみえいただき、あたらためて塚越氏のお話しへの関心の高さをうかがい知ることができました。

こうした講演依頼はご高齢のため現在は受けておらず、今回は旧知

の関係である本学・菅谷昭学長からの依頼によるもので、これが「最後」ということでした。その「特別な機会」をご提供いただいたことに感謝申し上げます。直にお話を伺えた学生たちにとってかけがえのない「財産」になったことと思います。ここで得た「教え」を塚越氏がおっしゃる「人生一度限り」のなかで活かしていってほしいと思っております。



最後になりましたが、今回、大変なご尽力いただきました塚越寛最高顧問、塚越亮専務(写真左から二番目)、鈴木悟郎エリアマネージャー(写真一番左)に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

(総合経営学科 教授 兼村 智也)

絵画の寄贈



本学の応接室にと、絵画を寄贈していただきました。

信州公衆衛生学会総会における公開講座を開催

8月28日に「地域をつなぐ、世代をつなぐ、健康づくり」という全体テーマのもと、第15回信州公衆衛生学会総会が開催されました。この総会は、松本大学が企画・運営を担当し、私が大会長を務めました。新型コロナウイルス感染拡大を受けて1年延期され、最終的には本年の開催もオンライン形式となりました。

本学との共催による公開講座は、大会長講演と国立長寿医療研究センターの島田裕之先生の特別講演「地域をつなぐ、世代をつなぐ、健康づくり～認知症・フレイル予防のためのエビデンスと実際～」とで構

成し、学会員以外の方の参加も得て、実施しました。

私の大会長講演は「食を通じた健康づくり～地域をつなぐ、世代をつなぐ活動から～」というテーマで、この学会の全体テーマを考えるに至った、私自身の研究や地域での活動を紹介しました。ご参加の皆様に、地域をつなぐ、世代をつなぐ食にかかわる活動の実践とそれを研究成果としてまとめていくことの重要性が伝わっていれば、うれしく思います。

(大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 廣田 直子)

今年度で3年目を迎える教育学部教育実習

教職支援センター 専門員 高山 雪
専門員 矢野口 仁

教育学部の学生が初等・中等・特別支援学校で行っている教育実習は、学生の進路決定の指針にもなる有意義なものであり、その素直で真摯な取り組みが学校現場で高く評価され、成果をあげています。そこで今回は、特別支援学校教育実習について紹介します。

学部として初めて特支教育実習を実施した昨年度は、特支免許状取得を目指す4年生30名が県内外の特別支援学校での実習に取り組みました。実習を通じて重い障害がある子ども達への教育に目覚めた学生は、その後も長野県教育委員会が募集する「学生サポーター」に応募し、多くが特別支援学校のスクールサポートスタッフとして児童生徒介助や学習支援などに当たり、貴重な体験を積み重ねました。卒業後は10名(講師を含む)が教員として長野県内の特別支援学校に勤務しています。教育実習を経験することによって後に教員採用試験の校種を特別

支援学校に変更した者もあり、学生に大きな影響を与えたことが分かります。

いまだにコロナ禍終息の見通しが立ちませんが、このような状況下でさえ今年度も特別支援学校のご配慮のお陰で、前期に3名が実習を終えることができ、後期には16名が実習を予定しています。大学に戻った学生からは、「これからもずっと特別支援学校の教育に関わっていきたい。」との感想が出され、教育実習の意義の大きさを再確認するとともに、学生達に深い感動を得る場を与えてくださった特別支援学校の先生方、子ども達に感謝するばかりです。

重い障害がある子ども達と共に学ぶ経験を積むことは、様々な困難を持ちながら通常学級で学ぶ子ども達への支援にも役立つはず。松本大学からそのような経験を積んだ教員を送り出せるよう、今後も特別支援教育並びに特別支援教育実習の円滑な推進に取り組んでまいります。

初等教育実習でも
大きな成果をあげています。



子どもが最大の協力者

玉川小学校:中村理紗(学校教育学科3年)



板書計画が大事

御代田北小学校:内堀菜利(学校教育学科3年)

長野県教育界の発展を! 「2021年度松本大学教育実践改善賞」論文募集

本学では、学校法人松商学園の創立120周年を記念し、地域および教育界へのさらなる貢献を目指して、「松本大学教育実践改善賞」を創設しました。今年度は、賞の創設4年目となりますが、一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、各学校は大変困難な状況に置かれています。長野県教育界の発展を支援するためにも、県内の優れた教育実践に光を当てる本賞の趣旨を踏まえ、これまでと同様に募集を行います。

昨年度は、18名の応募があり、3名が松本大学教育実践改善賞に、11名が特別賞に輝きました。松本大学教育実践改善賞の受賞論文は、冊子にまとめ長野県内全教育委員会および教育事務所等に送付しています。

なお、本賞の募集に関しては、長野県教育委員会の後援を受けています。皆様から多数のご応募をお待ちいたします。

目的 学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与することを目的としています。

応募条件

1 一般教員部門	長野県内の小学校・義務教育学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の現職教員を対象とします。
2 卒業生部門	松本大学の学部または大学院(研究生を含む)を卒業・修了し、現在教職に就いている方を対象とします。長野県の内外は問いません。

- ① 一般教員部門と卒業生部門があります。表彰は各部門とも若干名とします。
② 他の賞または研究誌に応募し、受賞または掲載されたものは除きます。 ③ 応募者が自ら行った実践であることを条件とします。

賞 賞状および賞金8万円

優秀な論文には、別途特別賞(賞状、図書券1万円分)を授与します。

募集期間 2021年10月10日～12月10日(郵送必着)

応募方法 取り組んだ教育実践の内容を指定の書式の論文にまとめ、応募票(募集要項参照、または、松本大学ホームページからダウンロードし必要事項を記入)を添付し、募集期間内に下記のあて先へ郵送してください。選考の過程においては、特に教育実践の改善に関する内容を重視します。

① 論文の書式

【本文】 A4判用紙、40字×35行、余白上下左右30mm、資料・写真も含めて5頁以上10頁以内。本文に必要な資料・写真は、必ず本文中に番号を付けて示してください。また、引用は出典を明記してください。

【資料】 本文に入りきれない補足資料(写真等を含む)については、本文とは別に添付することができます。その場合、補足資料の枚数は自由とします。ただし、全ての補足資料について、一つひとつ本文との関係を明確に示してください。本文・資料に写真を使う場合は、肖像権の確認をしてください。

② あて先

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学教職センター

お問い合わせ先 <教職センター長> E-mail yasutoshi.yamazaki@t.matsu.ac.jp
<教職センター事務局> TEL 0263-48-7260

▶詳しくは、こちらをご覧ください。

松本大学教育実践改善賞 2021 検索



News & Topics

留学生日本語スピーチコンテスト 優勝!

松本留学生応援ファミリーの会主催、第11回留学生日本語スピーチコンテストが7月11日、Mウィングにて開催されました。近隣の大学、専門学校の留学生12名が出場するなか、本学総合経営学科3年のエンシゲツさん



優勝したエンシゲツさん(中央)と応援団

ん(中国出身)が見事に優勝を果たしました。エンさんの演題は「日本人は冷たい?」。エンさんは周りから「日本人は丁寧だけど、冷たい」と聞かされ、日本にやってきました。でも、アパートの住民、大学の先生、学生らとの交流を通し、日本人が常に他の人を思いやることを知りました。そして、「世界に向かって『日本人は温かい!』と叫びたい」と締めくくりました。このスピーチコンテストは、平和・国際交流、松本の感想等をスピーチするものです。エンさんをはじめ、他の11名の素晴らしいスピーチを通して、会場の誰もが世界平和、国際交流の意義を深く感じたコンテストでした。(松商短期大学部 准教授 中村 純子)

本格化する就職活動に向けて「夏季就職対策講座」を実施

8月23日から9月3日の延べ8日間にわたり「夏季就職対策講座」を実施しました。この「夏季就職対策講座」は、学部3年生と短大1年生を対象に行い、面接官1名に対し学生3名でオンラインによる集団面接を経験することにより、後期から始まる就職活動に向けて少しでも面接の雰囲気慣れてもらうことを目的としています。学生は、事前に前期講義のなかで、身だしなみや言葉遣い、エントリーシートの書き方などについて学んでおり、今回の「夏季就職対策講座」では、学びを実践する場として臨んでいます。

学生の多くは、オンライン面接も集団面接も経験したことが少なく、今回の経験を通して、今自分に何が足りないのかを肌で感じている様子でした。特に、個人面接とは違い、集団面接は他の学生の面接している姿を間近で見ることができるといったメリットがあるため、刺激を受けた学生がたくさんいたという印象を受けました。コロナ禍であり、厳しい就職状況が続いていますが、学生一人一人に寄り添いながら、今後も引き続き学生の就職支援をしてまいります。(キャリアセンター 課長 中村 礼二)

ひまわりで地域を元気に!



毎年多くの方にお立ち寄りいただいている新村ひまわり畑。昨年は新型コロナウイルス感染症対策のためひまわり畑は中止となりましたが、JA松本ハイランド新村支部青年部にご

協力いただき、今年は13万本のひまわりが咲き誇りました。青空を背景に黄色く輝くひまわり畑は、地域の夏の風物詩となり多くの方に足を運んでいただきました。

健康栄養学科矢内研究室が共同開発した新商品2品が発売

「信州カルパス〜これシカない〜」を開発

地産で捕獲された鹿の肉を有効活用して、信州の鹿肉の食文化を内外に広く発信し、長野の新しいお土産としての特産化をめざす「信州カルパス〜



これシカない〜」を開発しました。これは、矢内研究室とJR東日本長野支社、株式会社まるたか、有限会社あづみ野食品との共同によるドライソーセージです。商品名とラベルの考案には、松商学園高等学校の生徒に協力いただきました。8月1日からJR東日本管内の駅構内の売店や県内の高速道路SA、道の駅などで販売中です。

特許成分コッコミクサ抽出物を配合した「信州生そば」

信州産そば粉を使用した上質な蕎麦に、特許成分コッコミクサ抽出物を配合した「信州生そば」を、株式会社日建総本社、有限会社あづみ野食品、矢内研究室で共同開発しました。抗ウイルス作用がある微細藻類「コッコミクサ」から多糖類を抽出し、粉末にした成分を麺に加えました。

常温で5ヵ月保存できますので、いつでもお手軽に生のそばをお楽しみいただけます。お土産やコロナ禍の常備品としてもご利用いただきたい商品です。



新型コロナワクチンの大学拠点接種を実施

学生・教職員の感染予防、および地域社会全体の新型コロナウイルスへの免疫の向上を目的とし、松本大学を会場に8月14日～10月2日にかけて新型コロナワクチンの拠点接種を実施しています。今回の拠点接種にあたっては、松本短期大学、松本看護大学、松本医療福祉専門学校、未来ビジネスカレッジ、松本情報工科専門学校の学生・教職員やその他県内企業の方等、接種対象者を拡大しました。医師・

看護師・本学運営スタッフが協力し、円滑な運営に取り組んでいます。今後も新型コロナウイルス感染拡大予防に全学をあげて取り組んでまいります。



教育学部一期生が加わった「校友会」

8月8日、第1回「校友会」(教職に就いている松本大学出身者の会)がオンラインにて開催されました。2021年3月に卒業した教育学部の第一期生も教職に就き、教育学部出身者として初めて参加した会でした。内容は、ICT教育に関する研修会と校種職種別の分科会での情報交換会でした。



研修会では、安曇野市教育委員会教育指導員の丸山広樹先生による「ICTを活用した学びづくり」と題した講演会、その後小中高それぞれの校種の代表者による事例発表を聞き、他校の取り組みを参考にする機会が設けられました。この春から新たに教職に就いた卒業生にとっては、実際に現場で体験する様々な悩みや戸惑いもある中、新しい気づきと発見が得られた会になったようです。参会者のアンケートからは、企画した内容が大変良かったとの感想が寄せられました。(全学教職センター長 教授 山崎 保寿)

他にも次のような出来事がありました。

- 「ハラスメント防止に関すること」をテーマに、6月30日にSD研修会を開催しました。
- 2021年度外部評価委員会を開催しました。大学は8月25日、短大は9月1日に行わ

- れ、本学の現況報告や委員の方々との意見交換を通して多くの助言をいただきました。
- 8月28日、29日に開催を予定していた防災士養成研修講座は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりました。

松商学園総合グラウンドの人工芝を全面張替え

8月2日から8月31日にかけて松商学園総合グラウンド サッカーグラウンド内の人工芝の張替え工事を実施しました。工事期間中は陸上部、サッカー部の部員の皆さん、松商学園高校のグラウンド利用の皆さんには、練習場所を変更していただくなどご迷惑をおかけしました。ご協力いただきありがとうございました。

張り替えた人工芝は、いままでの人工芝に比べて起立性が向上していると同時に、しなやかさも確保した仕様になっています。さらに今回新たに、プレーヤーの足腰への負担軽減を目的として人工芝の下地にパッドを敷設しました。

今後、授業、練習、試合を通じて、天然芝のような走り心地を是非とも体感してください。そして特にサッカー部の皆さんが、新しくなったこのグラウンドで技術・戦術を磨き、これまで以上に活躍することを願っています。

[人工芝:住友ゴム工業製 ハイブリッドターフEXII-55]

(総務課 係長 石川 大輔)



部活動情報 Club・Circle

硬式野球部

春季リーグの経験を活かし更なる高みをめざして 1部リーグ、いよいよ2シーズン目に突入

本学硬式野球部は、10月2日より関甲新学生野球連盟の秋季リーグにて1部での2シーズン目に臨みます。秋季リーグは、コロナ禍の影響により開幕が当初の予定より1カ月延び、1部リーグ8校による1回戦総当たり戦となりました。9年ぶりに1部に昇格した春季リーグではいくつもの課題を残したことから、今夏は厳しい練習を積み重ねてきました。その成果を発揮して1部に定着するだけでなく更に上をめざして戦っていきたくと考えています。

コロナ禍の制約の下でできる限り

の準備をしてきましたが、このような状況で野球に取り組めることに感謝しつつ頑張っていきたいと思えます。大学関係者や地域の皆様から応援を宜しくお願いいたします。

(硬式野球部 部長 白戸 洋)



関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	10	2	土	白鷲大学 - 松本大学	10:00	白鷲大学
第2節	10	3	日	上武大学 - 松本大学	10:00	上武大学
第3節	10	9	土	新潟医療福祉大学 - 松本大学	12:30	上武大学
第4節	10	10	日	平成国際大学 - 松本大学	12:30	白鷲大学
第5節	10	16	土	松本大学 - 常盤大学	12:30	上武大学
第6節	10	17	日	関東学園大学 - 松本大学	12:30	上武大学
第7節	10	23	土	山梨学院大学 - 松本大学	12:00	山梨学院大学

※日程・会場が変更になる場合があります。

自転車部

全日本大学対抗選手権自転車競技大会に出場!!

自転車部の山浦秀明さん(スポーツ健康学科2年)が、8月13日~15日に長野県美鈴湖自転車競技場で開催された文部科学大臣杯第76回全日本大学対抗選手権自転車競技大会(男子オムニウム種目)に出場しました。結果は残念ながら予選敗退となり

ましたが、今シーズンは、国体予選・長野県大会ロードレースで優勝したほか、トラック競技200mタイムトライアルでも優勝するなど好成績を上げており、今後の活躍にも期待です!



女子ソフトボール部

インカレ、いよいよ開幕

第56回全日本大学女子ソフトボール選手権大会(以下インカレ)は、愛知県安城市にて11月9日(火)～11日(木)の期間で開催されます。昨年度の第55回全日本インカレは新型コロナウイルスの影響により中止

となりましたが、今年度はベストパフォーマンスができるように、選手たちは日々練習に励んでいます。皆さまのご声援よろしくお祈いします。



男子サッカー部

3年ぶり2回目の 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場

男子サッカー部は第45回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会で準優勝し、3年ぶり2回目の本大会出場を果たすことができました。8月24日、1回戦で東京学芸大学(関東第3代表)と対戦し0-3で敗れ、目標としていた全国大会での勝利はなりません。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で大会

自体が中止、今年度は全国各地で緊急事態宣言が発出される中での全国大会開催となりました。しかし、関東大学サッカー連盟を中心とする関係者の皆様の並々ならぬ思いと感染症対策の努力があり、全国大会を経験させていただくことができました。

こうした人々の思いやサッカーをできるありがたさを実感しながら、「全国常連校」を目



指し日々の活動に精進していきたいと思えます。引き続きご声援をよろしくお祈いいたします。(男子サッカー部 部長兼監督 齊藤 茂)



北信越大学サッカーリーグ戦1部 後期リーグ戦【日程】

	試合日時	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9/11(土)	福井工業大学ー松本大学	11:00	あわらキャンパス
第2節	9/18(土)	金沢大学ー松本大学	10:30	金沢大学SOLTILO FIELD
第3節	9/25(土)	松本大学ー金沢学院大学	10:15	松本大学
第4節	10/ 3(日)	富山大学ー松本大学	11:00	日医工スポーツアカデミー
第5節	10/ 9(土)	松本大学ー新潟産業大学	10:15	松本大学
第6節	10/16(土)	松本大学ー北陸大学	10:15	松本大学
第7節	10/23(土)	金沢星稜大学ー松本大学	10:30	石川県サッカー場
第8節	10/30(土)	松本大学ー新潟医療福祉大学	10:15	松本大学
第9節	11/ 6(土)	松本大学ー新潟経営大学	10:15	松本大学

※日程・会場が変更になる場合があります。

2021オープンキャンパス終了!

日本一のオープンキャンパスをめざして

4月に開催した松商短期大学部のオープンキャンパスを皮切りに、9月まで7回を計画し、最終回は新型コロナウイルスが全国的に拡大していることから中止となりましたが、計6回のオープンキャンパスを開催することができました。今年度は、延べ1,146名の方にご参加いただきました。オープンキャンパスでは、学びの内容や研究分野、将

来の進路、施設の様子などを知っていただき、今後の適切な進路選択に役立つイベントとなるよう、毎年ニーズに合ったやり方を検討しながら実施しています。

本学のオープンキャンパスにおける最大の特徴は、部活でもサークルでもない入試広報室の支援部隊ともいえる「マツナビ」の存在です。現在の登録者は100名を超え、しっかりとした目的意識を持った学生が多くを占めています。主な活動内容は、オープンキャンパスの運営に加え、受付や施設案内、学生相談、事前準備から当日の片づけまで責任をもって行います。「日本一のオープンキャンパスをめざして!」をスローガンに、4つの誓いE(笑顔)G(元気)A(あいさつ)O



(おもてなし)を立てて、自分たちで計画した研修会や反省会をもとにスキルアップや改善をしながらオープンキャンパスに臨んでいます。こうした活動は、本学の特徴である実践型教育であり、ここで培ったスキルは地域社会で発揮できるものと確信しています。オープンキャンパスの成果が学生募集の良い結果に結びつくように、マツナビの協力を得ながら今後も強化・充実に取り組んでいきます。最後になりますが、多数のご参加ありがとうございました。



大学院を修了後、最初に就職した先は都内の公立の相談所でした。そこには将さんという住職でも大学教員でも心理師でもある上司がいました。将さんからは心に残る名言が多くあり、この仕事をしていると当時の言葉を今も頻りに思い出します。特に日々聞いていた言葉は「どんな時も謙虚でいなさい」という教えであり、何かある度に、何もなくても「謙虚、謙虚」と話されていたように思います。私が就職できたのは、面接の時にあまりPRせず、教えてもらいたいという態度が良かったからでそう、本当に自信がなかったのですが、そんな所が評価されたのかとびっくりしました。

将さんは正義感が強く、相手の立場に関係なく主張ができる方で、当時の上司の少し傲慢な言動に対してはよく怒っていました。その度に「人は謙虚じゃないといかん」と話されるので、当時はまた言っているな、と聞き流すくらいになっていましたが、今日も「謙虚」を気にしてしまう私があり、その言葉が身体に染みついてしまっているようです。

また「この仕事をするならば世の中を知らないとならん。大学院なんて出てるものは大体が世間知らず。カフェばかり行くな。カッコつけるな。」と、もっと幅広く様々な経験をするように言われました。そして一緒に新宿

松商短期大学部 准教授 中山 文子

の横町の立ち飲み屋さんに寄ったりするなど、貴重な経験を沢山させていただきました。今になって「あなたの見てきた世界はほんの一部で、知らない世界がまだまだあることを知れなさい」とのお言葉、本当にその通りだったと思います。

その後、松本に来てからは年賀状でのやり取りだけになっていましたが、昨年病気で他界されたとお聞きし、あの元氣な将さんが、と信じられない思いでした。きっと魅力的で強烈なお人柄と、多くの名言は沢山の人の心に存在し続けるのだろうか、今ならどんな話をしてくださるのかと、考えます。

Information

学友会および梓乃森祭
WEBサイトをリニューアル

この度、本学学友会サイトと梓乃森祭のWEBサイトをリニューアルしました。学友会が主体となり、イベント情報や大学祭のご案内など、コンテンツを充実させていきます。ぜひご覧ください。



2021年度大学祭(梓乃森祭)は、当初予定の10月16日、17日の開催を中止し、12月19日(日)にオンラインを中心とした実施方法で現在進めています。詳細については、学友会サイトやSNS、松本大学公式サイト等を通して情報発信します。

アルバイト情報は
松本大学公式サイトからお寄せください

松本大学公式サイト内にアルバイト情報のコンテンツを設けました。お申込みいただく際は、専用フォームに求人情報をご入力ください。



高校3年生対象

10/12(火)から個別入試相談を実施

各選抜の説明から入試準備等、幅広くご相談いただけます。

日時

平日9:00~17:00

※お問合せ・実施ともに上記時間内となります。

※土日祝日および休館日は実施いたしません。



実施方法

電話、対面、オンラインから選択可能です

申込方法

事前にお電話いただき、日時を相談いたします。

入試広報室まで
お問合わせください。

0263-48-7201

アルピコ交通上高地線 代行バスを運行中

現在アルピコ交通上高地線は、大雨による田川橋りょう被災に伴い、松本駅~新村駅間はバスによる代替輸送を行っております。発車時刻、及び代行バス乗降場所については、アルピコ交通株式会社のホームページにて事前に確認をお願いします。また、交通状況により遅れが発生することがありますので、時間に余裕をもってご利用ください。

編集後記

週末にできるだけ同じ時間に同じ道を歩くと決めて1年。あらためて日本は四季がある国だと感じています。遠くに見える山や足元に咲く草花の色。どこからか聞こえてくる虫や動物たちの鳴き声。風が吹いてくる方向や日が暮れていく時間。1日単位ではほんの少しの変化かもしれませんが、気がつくとも季節が変わっていることに驚かされます。

ちょっとくらい変えたくらいじゃ何も変わらない!つい私たちはそう考えてしまうことがあります。しかし、ほんの少しの変化が、やがて季節を大きく変えていくように、小さな変化を作ることがいずれ大きな変化を作ることができるかもしれません。まずは一歩。変化が求められる今こそ、何か始めてみませんか?
(記・入試広報室長 坂内 浩三)

